

みなさんに知ってほしい 「水の日」と「水の週間」

最優秀賞 宇野 誠洋さん(福岡県 福岡教育大学附属福岡中学校 1年生)

みなさんは、「水の日」・「水の週間」をご存じですか？

日本では、蛇口をひねると安全で安心な「水」が流れてきます。私たちが普通に感じることも、世界では普通ではありません。来年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、今から55年前に開催された東京オリンピックの頃、東京は水不足から「東京砂漠」と呼ばれていた時代がありました。

「水の日」「水の週間」は、水の大切さや水資源開発がとても重要であることを、みなさんに「知って」「考えて」ほしいという取り組みです。昭和52年に閣議了解されて以来、8月1日を「水の日」、8月1日から8月7日の1週間を「水の週間」とし、毎年、全国各地で様々な行事が行われています。

今年のキャッチフレーズは、「私たちが支える水。考えてみませんか。訪ねてみませんか。」です。皆さんもご家族やお友達と考えてみてください、私たちの「水」をこれからも守るために。

それでは、今年開催された「水の日」「水の週間」行事について、ご紹介しましょう。



作文コンクール受賞者の方々

水を考えるつどい

令和を迎え最初の8月1日(木)、東京都新宿区のパークタワーホールで「水の日」を記念して、「水を考えるつどい」が開催されました。この日来場された方は、約300名。会場内はほぼ満員となり、水への関心の高さがうかがえます。この行事は、政府主催行事で内閣官房水循環政策本部、東京都及び水の週間実行委員会が主催者となり開催しています。



式典 作文コンクール表彰式と最優秀賞作文朗読

「第41回 全日本中学生 水の作文コンクール」の表彰式が行われました。作文は、日本国内外から12,000件の応募があり、その中から最優秀賞(内閣総理大臣賞)を受賞した宇野誠洋さんが「水…時空を超えて全てをつなぐ」を朗読されました。探査機「はやぶさ2」の成果で分かった小惑星リュウグウにあったと思われる水と、私たちが飲んでいる地球の水の「生みの親」が同じらしいという驚きと、ダム見学に訪れた宇野さんが気付いた「水」とのつながりとは。入賞作品につきましては、以下国土交通省ウェブサイトよりご覧いただけます。また、今後、広報誌「水とともに」でもご紹介します。

第41回全日本中学生水の作文コンクール

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/tochimizushigen_mizsei_tk1_000010.html



第一部 基調講演

基調講演では、水の週間実行委員会会長で、東京大学名誉教授の虫明功臣先生より「1964東京オリンピックを前にした水危機の克服～政官民が英知を結集した対応～」と題して、平成28年の利根川渇水とその対応や、利根導水路事業の成立過程についてのお話があり、今後の課題として、気候変動により激甚化する水災害（豪雨災害と渇水）にどのように対応するか、また、政官民が連携、協働できる仕組み作りや、それぞれの立場で知恵と力を出し合う事が重要と講演を締めくくられました。



虫明 功臣 水の週間実行委員会会長

第二部 パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、コーディネーターに雨水まづくりサポートの笹川みちる理事、内閣官房水循環政策本部の溝口宏樹事務局長を迎え、



パネリストに東京都水道局 尾根田勝 浄水部長、京都大学 渡邊紹裕名誉教授、芝浦工業大学 土木工学科 平林由希子教授、水資源機構 金尾健司理事長の計6名でディスカッションが行われました。今年のテーマは、「渇水を通じて水の有効利用を考える～水を賢く使う、長く使う～」。

来年、開催される東京オリンピック・パラリンピック時の「水の確保」や「渇水対策」、「暮らしの中で私たちができる事」について討議されました。金尾理事長からは、前回の東京オリンピック時の渇水状況（給水制限、応急給水など）を写真など交え説明し、利根導水の役割や関東の水がめについてご紹介。最後に、「日本人が誇れる『安心で安全な水』で、世界各国から訪れるお客様へおもてなしを」とのメッセージを発信しました。



笹川 みちる氏

溝口 宏樹氏



尾根田 勝氏



渡邊 紹裕氏



平林 由希子氏



金尾 健司氏

水のワークショップ・展示会

8月13日(火)から15日(木)までの3日間、東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)が開催する「ホップ!ステップ!! 2020!!! 丸の内キッズジャンボリー※1」に参加し、「君の知らない水の世界～水の大辞典～」をテーマに掲げ、小学生の親子を対象に上水道や下水道の仕組みや役割、農業用水の不思議、森林の働きと機能、天気を学び気象災害から身を守る方法などのワークショップのほか、パネルやクイズなどを通して、水の重要性や貴重さ、水のめぐりや水の恵みなどについて学べる内容の展示会を行いました。水資源機構の出展ブースでは、実際に矢木沢ダムで撮影した動画を、VR※2を通して見ることで、実際にダムを見に来たような迫力ある映像を、開催期間中1,372名の方に体感していただきました。ゴーグルを覗いて、ダムの上から見下ろしたり、ダムの下から見上げてみると、思わ

ず「すごーい!大きい。」「高ーい!」と声が出てしまうほど皆さん楽しまれたようです。私も体感しましたが、子供も大人も楽しめるこの企画は、ご好評をいただきました。

- ※1 丸の内キッズジャンボリー
2007年に東京国際フォーラムの開館10周年記念事業としてスタート。
子どもたちの夢を育む参加・体験型イベント。
- ※2 VR
ヴァーチャルリアリティの略。人工現実または、仮想現実のこと。



VRで360° ダムを体感



体験型ワークショップ「天気と防災教室」(NPO 法人気象キャスターネットワーク)